

OSS-DB Silver 試験対策問題集 Ver3.0対応 正誤表

更新日：2026/1/28

問題集の一部に誤りがございました。大変申し訳ございませんが、以下内容の訂正をお願いいたします。

< 第6版 >

ページ	問題	内容		解説
117 146	S3 26	誤	D) RANDOM 関数では0から1の範囲の乱数が返される。	選択肢Dの文章について、境界値を含むかどうか不明瞭だったため修正しました。
		正	D) RANDOM 関数では0以上1未満の範囲の乱数が返される。	

< 第5版 >

ページ	問題	内容		解説
11 36	S1 21	誤	D) ANALYZE 不正解です。 ANALYZE は DDL に該当します。	選択肢Dの解説について、PostgreSQLのマニュアルにてANALYZE コマンドのSQL分類は明確に定義されておりませんでした。そのため選択肢を変更しました。
		正	D) MERGE 不正解です。 MERGE は DML に該当します。	

<第4版>

ページ	問題	内容	解説
85	S2 24	<div style="display: flex; border-bottom: 1px solid black;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">誤</div> <div style="padding-left: 5px;"> <p><主なメモリー関連パラメータ>表の「wal_buffers」の説明列 変更履歴を格納する、WAL バッファのサイズを設定します。デフォルトの -1を指定した場合、shared_buffers の1/3のサイズが確保されます。 パラメータの変更には PostgreSQL サーバーの再起動が必要です。</p> </div> </div> <div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">正</div> <div style="padding-left: 5px;"> <p>変更履歴を格納する、WAL バッファのサイズを設定します。デフォルトの -1を指定した場合、shared_buffers の1/32のサイズが確保されます。 パラメータの変更には PostgreSQL サーバーの再起動が必要です。</p> </div> </div>	<p><主なメモリー関連 パラメータ>表の 「wal_buffers」の 説明列の内容に誤 りがありました。</p>

<第3版>

ページ	問題	内容	解説
98	S2 35	誤 <COPY/¥copy コマンド>表の「管理者権限」列の値 COPY : 不要 ¥copy : 必要	<COPY/¥copy コマンド>表の「管理者権限」列の値に誤りがありました。
		正 COPY : 必要 ¥copy : 不要	
115 141	S3 21	誤 C) 実行すると test 表に0が挿入される。	選択肢Cの文章があいまいな表現だったため、見直しました。
		正 C) 実行すると test 表に0の 1行 が挿入される。	
119	S3 33	誤 C) SAVEPOINT 文を実行すると、トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。	選択肢Cの文章があいまいな表現だったため、見直しました。
		正 C) SAVEPOINT を事前に設定しておくことで 、トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。	
126	S3 6	誤 ②子テーブルとして CREATE TABLE 文 の CREATE TABLE 文の PARTITION OF 句でパーティションの境界条件を定義	選択肢Aの解説文に誤りがございました。赤字部分は不要です。
		正 ②子テーブルとして CREATE TABLE 文の PARTITION OF 句でパーティションの境界条件を定義	
154	S3 33	誤 C) SAVEPOINT 文を実行すると、トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。 正解です。 トランザクション中に SAVEPOINT 文を実行することで、ROLLBACK 実行時に SAVEPOINT まで ROLLBACK できます。	選択肢Cの文章と解説があいまいな表現だったため、見直しました。
		正 C) SAVEPOINT を事前に設定しておくことで 、トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。 正解です。 事前に SAVEPOINT を設定した上で、ROLLBACK TO SAVEPOINT 名を実行すると、トランザクションの途中まで ROLLBACK できます。	

<第2版>

ページ	問題	内容		解説
173	模擬 試験 45	誤	PostgreSQLでPITRを実行する際に必要のないファイルはどれか。適切でないものを2つ選びなさい。	問題文に誤りがありました。
		正	PostgreSQLでPITRを実行する際に必要のないファイルとして、適切なものを2つ選びなさい。	

<第1版>

ページ	問題	内容	解説
13	S1 26	誤 第二正規形が満たしている条件として、適切でないものを1つ選びなさい。	問題文に誤りがありました。
		正 第三正規形の条件を満たす状態として、適切なものを1つ選びなさい。	
52	S2 21	誤 E) 値を文字列型の「true」「false」を表現できる。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 E) 値を文字列型の「true」「false」で表現できる。	
54	S2 31	誤 D) バックアップデータは常にバイナリ形式で出力される。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 D) バックアップデータは常にテキスト形式で出力される。	
104	S2 41	誤 C) VACUUM FULL コマンドは、データベースクラスタ内のすべてのオブジェクトが対象になり、特定のオブジェクトだけを対象にすることはできない。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 C) VACUUM コマンドで対象のテーブル名を省略した場合、接続中のデータベース内の実行可能な権限があるすべてのオブジェクトが対象になる。	
117	S3 26	誤 A) 集約関数の結果に対する条件を指定する場合は HAVING 句を用いる。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 A) AVG や SUM などの集約関数の結果に対する条件を指定する場合は HAVING 句を用いる。	
119	S3 33	誤 B) トランザクションは明示的に COMMIT を実行しなければ COMMIT されることはない。 C) トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 B) トランザクションを確定するには、必ず明示的に COMMIT を実行する必要がある。 C) SAVEPOINT 文を実行すると、トランザクションの途中まで ROLLBACK できる。	
119	S3 34	誤 A) read committed の場合、他セッションの COMMIT 済みの結果が見える。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。
		正 A) 分離レベル READ COMMITED の場合、他セッションの COMMIT 済みの結果が参照できる。	